第２回学校運営協議会　議事録

１　学校からの提案とお願い

（1）学校が目指す生徒像について

2029 年の高校学区制撤廃を見据え、名西高校が地域から選ばれる学校となるためには、学校の魅力化が重要な課題である。

学校としては、これまで大切にしてきた「自ら考え、自分の意見を持ち、表現できる生徒」の育成に加え、多様な価値観を尊重しながら対話を重ね、納得できる答えを見いだし、自ら判断・決定して行動できる「自立した生徒」の育成を目指したい。

そのために、次の３つの力を育てていきたい。

- ワクワク学ぶ力：未知の課題にも好奇心を持ち、主体的に学び続ける力
- エラー＆ラーンの力：失敗を恐れず挑戦し、失敗から学んで立ち直る力（レジリエンス）
- 対話力：多様な価値観を尊重し、対話を通じて合意形成する力

（2）名西高校を取り巻く課題と今後の探究活動について

少子化や人口減少に加え、入学希望者数が定員に満たない状況も見られることから、単に生徒数の減少だけでなく、学校が提供する教育活動と、生徒・保護者が求める教育ニーズとの間にミスマッチがないか、改めて見直す必要がある。

今後、他校との競争がさらに激しくなることを見据え、名西高校ならではの魅力を構築することが急務である。

その突破口として、これまでの調べ学習や発表を中心とした探究活動から、地域の現場に出て、自分たちで立てた仮説を実際に試し、得られたデータや地域の方々の助言をもとに改善していく「実践型の探究活動」へと発展させたい。

実際に行動し、失敗や試行錯誤を繰り返しながら考えを深める経験を通して、生徒の主体性や自己決定する力を育てていきたい。

(3)「トークフォークダンス」の実施について

実践型の探究活動を進めるためのきっかけとして、地域の多様な大人と高校生が対話する「トークフォークダンス」を実施したい。

この取組には、次の４つの目的・効果を期待している。

1. 多様な大人との出会い

様々な分野で活躍する大人と交流し、生徒の視野を広げ、将来のロールモデルや新たな興味・関心を見つける機会とする。

2. 探究活動の深化とレジリエンスの向上

大人との対話を通して新たな情報や考え方に触れ、自分の仮説や課題意識を見直し、探究活動を深めるきっかけとする。

3. 地域との継続的なつながりづくり

単発のイベントに終わらせず、今後の探究活動において相談や協力を得られる地域の大人とのネットワークを構築する。

4. 傾聴力・表現力の向上

相手の話を聞くことと、自分の考えを伝えることを繰り返し、思考を言語化する力やコミュニケーション能力を高める。

実施にあたっては、生徒が円になって座り、対話する相手を交代しながら、地域の大人と短時間の対話を繰り返す形式を想定している。また、ファシリテーターによる進行や、対話の内容をイラストやキーワードで可視化するグラフィックレコーディングも取り入れ、生徒の振り返りにつなげたい。

（4）実施に向けた協力のお願い

- 開催日時： 12 月 15 日 9 時 50 分～12 時 35 分（予定）
- 会場： 石井町の施設（藤ホールを借用予定）
- 参加者： 1・2 学年の生徒それぞれ約 100 名、地域の大人約 100 名

学校運営協議会の委員には、次の 2 点について協力をお願いしたい。

1. 企業や関係団体、知人など、様々な分野で活躍する地域の大人に声を掛け、参加者を紹介していただきたい。可能であれば、委員 1 人につき 10 名程度の紹介をお願いしたい。
2. 可能な方には、当日、生徒の対話相手として参加していただき、生徒の問いや提案に対して、人生の先輩として温かい助言や励ましをいただきたい。

参加にあたって専門的な知識は必要なく、それぞれの生活や仕事、人生経験を生徒に語っていただくことを期待している。

今回の取組を一過性のイベントに終わらせず、その後の実践型探究活動につなげるため、継続的なアイデアや助言、協力もお願いしたい。

【委員からの主な意見・感想】

1. トークフォークダンスの効果について

前任校での実施経験を踏まえ、トークフォークダンスは高校生と地域の大人がつながる非常に有意義な取組であるとの意見があった。

実際に、普段、家族や教員以外の大人と話す機会が少ない生徒にとって、多様な大人と直接対話する経験は大きな刺激となり、自分の考えや興味を広げるきっかけになる。

2. テーマ設定と対話の工夫について

単に大人と生徒が話すだけでなく、生徒一人ひとりの興味・関心や探究課題を踏まえ、それに応じた大人と対話できるようにすることが重要であるとの意見があった。

また、実施を重ねる中で、参加者全員が取組の目的や進め方を理解し、対話がより深まるよう工夫することも大切である。

3. 継続的な地域との連携について

トークフォークダンスをきっかけに、高校生と地域の大人が継続的につながり、そこから新たな活動や地域づくりにつながることが期待される。

実際に前任校では、対話をきっかけに、地域の漫画家と生徒がつながり、駅周辺に壁画を制作する活動に発展した事例や、参加企業からの求人につながり、生徒の就職に結び付いた事例も紹介された。

こうした経験から、学校が地域の人々の集まる場となり、新たな取組やつながりを生み出す地域

の核となる可能性があるとの意見があった。

2　学校の魅力化と生徒募集

(1) 地域から見た名西高校の魅力や強み

- 芸術科をはじめとする、名西高校ならではの特色や専門性を積極的にアピールする。
- 同窓会など、学校を支える地域の人々とのつながりを大切にする。
- 地域との交流や連携を通して、学校の魅力を高めていく。

(2) 中学生・保護者への効果的な情報発信

- ホームページや Instagram などの SNS を活用し、学校の教育活動や生徒の様子を積極的に発信する。
- 石井 CATV などの地域メディアも活用し、学校の取組を地域や中学生に知ってもらう。
- オープンスクールや体験入学、PR 動画などを通して、中学生が学校の魅力を実際に感じられる機会を増やす。
- 芸術科については、作品展示や制作活動の紹介、進学先などの情報を発信し、学科の魅力や卒業後の進路を具体的に伝える。
- 部活動の活性化を図るとともに、中学生と高校生が合同練習などで交流できる機会を設ける。
- 地域イベントへの参加や小・中学校との交流活動など、現在行っている活動を効果的に発信する。

(3) 地域資源を活用した特色ある教育活動

- 地域の文化や歴史、自然、文化財などを活用した教育活動を充実させる。
- 地域のイベントや文化的な活動への参加を通して、地域への理解や愛着を深める。
- 地域の特色や資源を生かした、名西高校ならではの教育活動を展開する。

3　探究活動・地域課題研究の充実

(1) 地域の課題をテーマとした探究活動

- 調べてまとめるだけの学習から、実際に地域に出て活動し、課題解決につなげる探究学習へと発展させる。
- 生徒が自分自身の興味・関心に基づいた「マイテーマ」を持ち、主体的に課題を設定できるようにする。
- 生徒の問いを立てる力や当事者意識を育てる。
- 調べ学習と探究学習の違いや、探究活動の目的・ゴールについて、教員と地域が共通理解を持つ。
- 探究活動の成果を発表・発信できる機会や場を確保する。
- 探究活動を充実させるため、学校の教育内容やプログラムを見直す。

(2) 地域の人材や企業・団体との連携

- 地域企業との連携を進め、企業訪問や職場体験、インターンシップなどにつなげる。

- 地域の経営者や専門的な知識・経験を持つ人材から学ぶ機会（社長塾など）を設ける。
- 地域と学校をつなぐコーディネーターなど、連携を支える人材の確保を検討する。
- 神山まるごと高専の生徒との交流や、移住者との対話など、異なる環境や価値観に触れる機会を設ける。
- 地域の文化や芸術など、専門分野で活躍する人材との交流を進める。

（3）フィールドワークや成果発表への協力

- 地域の様々なイベントに生徒が参加し、地域の人々や活動に直接触れる機会を増やす。
- 地域の文化祭やイベントなどをフィールドワークの場として活用する。
- 地域の行事や活動に関する情報を学校と共有し、生徒が参加しやすい環境を整える。
- 地域の人々に探究活動の成果発表を見てもらい、意見や助言をいただく機会を設ける。

（4）職場見学・インターンシップ等の受け入れ

- 地域の企業や事業所に職場見学・インターンシップなどの受け入れを依頼し、実際の仕事や社会について学ぶ機会をつくる。
- 芸術科については、卒業後の進路や将来の職業を具体的にイメージできるよう、様々な分野で活躍する人材との出会いや、ロールモデルとなる人との交流を充実させる。

3　協議全体から見えてきた主な方向性

今回の付箋による意見交換から、特に次の 4 点が重要な方向性として見えてきた。

方向性	主な内容
① 学校の魅力の発信	芸術科の特色や生徒の活動を、SNS・地域メディア・体験入学等を通して積極的に発信する。
② 地域とつながる教育活動	地域の文化・歴史・企業・人材を活用し、地域ならではの学びを充実させる。
③ 実践的な探究活動	生徒自身が課題を設定し、地域での体験や実践を通して課題解決に取り組む。
④ 地域との継続的な連携	企業・団体・地域住民とのネットワークを構築し、職場体験やインターンシップ、成果発表などにつなげる。

今回の協議では、委員の皆様から、学校の魅力化や生徒募集、地域と連携した探究活動の充実に向けて、多くの貴重なご意見や具体的なご提案をいただいた。学校だけでは気づきにくい地域ならではの視点や、様々な立場からのアイデアをいただくことができ、大変有意義な協議となった。いただいたご意見を今後の教育活動や学校運営に生かし、地域とともに魅力ある学校づくりを進めていきたい。

【参加できなかった委員からの意見】

（1） 地域から見た名西高校の魅力・強みについて

- 芸術科があることは、名西高校の大きな強みである。
- 地元の中学校から進学しやすく、通学費用や通学環境の面でも安心感がある。
- 地域に根差した高校として、身近な存在であることも魅力の一つである。

（2） 中学生・保護者への効果的な情報発信について

- Instagram は有効な発信手段であり、更新回数を増やしてもよいのではないか。
- 生徒の活動だけでなく、実際に子どもを通わせている保護者の視点からの情報発信も効果的である。
- 保護者にも学校の魅力が伝わるような発信を工夫してほしい。

（3） 地域資源を活用した特色ある教育活動について

- 地域の農業を生かした学習活動が考えられる。
- 例えば、規格外野菜の販売拡大や加工品の開発など、地域の課題と結び付けた取組ができるのではないか。

（4） 地域の課題をテーマとした探究活動について

- 人口減少や農業の担い手不足など、地域が抱える課題を探究テーマにしてはどうか。
- 新規就農者が増えている背景や、農業の後継者不足、廃業の理由などを調べることも有意義である。
- 農家と行政の双方の立場から課題を考え、生徒自身が「どのような環境なら農業に就きたいと思うか」を考える学習も効果的である。

（5） 人材・企業・団体との連携について

- 連携先となる企業や団体を、生徒だけで探すことは難しいため、教職員や保護者も知人・勤務先などを通じて協力先を探してはどうか。
- 保護者や地域の人々とのつながりを生かし、協力体制を広げることが重要である。

（6） フィールドワークや成果発表への協力について

- 生徒の探究活動の成果は、保護者や企業、地域の方々にも発表する機会を設けてほしい。
- 成果発表は年に数回に分け、短時間で実施するなど、企業や地域の方々が参加しやすい工夫も必要である。
- 前年度の先輩の取組を後輩が引き継ぎ、継続的に探究することで、より深い学びにつながる。
- 探究活動では、生徒によって取組への意欲や負担に差が生じないよう、評価方法や役割分担にも配慮する必要がある。

（7） 名西高校の魅力をさらに高めるための取組について

- 名西高校独自の取組を一つ打ち出し、「名西カラー」をさらに広く周知してはどうか。
- 学習環境の充実に加え、部活動についても大会成績だけでなく、日頃の活動や努力する姿を発信することが大切である。
- 部活動や生徒会活動などを SNS でストーリー性を持たせて紹介することも効果的である。

- PTA にも協力してもらい、学校全体で魅力発信に取り組んではどうか。

（8） 地域と学校が連携して提供できる学びや経験について

- 生徒が普段接する機会の少ない高齢者や地域住民など、幅広い世代の人々と交流することが大切である。
- 地域との交流を通して、これまで知らなかった人や仕事、価値観に触れる機会を増やしてほしい。
- 学校側から協力を依頼するだけでなく、企業側からも「高校生とこんなことができるのではないか」と提案してもらえる仕組みがあるとよい。

（9） 地域から見た今後の名西高校への期待について

- 現在の落ち着いた、穏やかな学校の雰囲気を大切にしてほしい。
- 学習と部活動の両立など、文武両道をさらに推進してほしい。
- 生徒一人一人が自分の意思や将来の希望を持ち、教員の助言を受けながら進路を選択できる環境を整えてほしい。
- 進学・就職のどちらを選んでも、進路の可能性を狭めないよう、通常選択していない教科も学習できる機会や補習などを充実させてほしい。

□名西高校の魅力をさらに高めるための取組について

- 「誰にとっての魅力なのか」を明確にすることが重要である。
- 中学生と保護者では、高校に求めるものが異なるため、それぞれのニーズを把握する必要がある。
- 在校生にも「なぜ名西高校を選んだのか」「入学して感じた魅力は何か」を聞くことが有効である。
- 現在の名西高校の魅力を整理し、対象者に効果的に伝える方法を検討する。
- 不足している魅力があれば、新たな取組や既存の取組の充実につなげていく。

□地域と学校が連携した学びや経験の機会について

- 生徒と地域住民の双方が、互いに関わりたいと思っているかを把握することが重要である。
- 地域住民と生徒が交流できる機会を設け、日常では接点の少ない世代同士がつながるきっかけをつくる。
- 例えば、川島高校で実施した「トークフォークダンス」のような交流活動も参考になる。
- 生徒の意欲が高い場合は、探究活動を通して、生徒自らが企業や地域住民に働きかけることも有効である。
- 生徒の状況や地域性を踏まえ、無理のない連携の方法を考えることが望ましい。

□地域から見た今後の名西高校への期待について

- 地域住民、保護者、企業など、それぞれの立場によって学校への期待は異なる。
- 地域の方々と交流する機会を通して、名西高校に何を期待しているのかを把握する必要がある。
- 学校側から一方的に協力を求めるのではなく、地域の声を聞きながら、学校と地域が一

緒になって今後の学校の在り方や地域での役割を考えていくことが重要である。

〇石井町ならではの自然・文化・歴史などの地域資源を生かし、町との連携による特色ある教育活動をさらに充実させてほしい。
〇名西高校独自の特色ある学びを打ち出し、大学進学にもつなげることで、地域から選ばれる魅力ある学校へと発展していくことを期待する。